

令和7年度 第2回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和8年3月17日(火) 10時00分～12時00分
- (2) 場所 さいたま市役所別館2階第7委員会室

2 出席者

(1) 委員

新保	奈穂美	委員
土屋	一彬	委員
福岡	孝則	委員(会長)
加倉井	憲一	委員
吉沢	浩之	委員
黒田	真弓	委員
煙山	亜由美	委員
高橋	和宏	委員(代理出席：加藤 裕紀 氏)

(2) 事務局

みどり公園推進部長	小山 史男
みどり公園推進部次長	薮島 志浩
みどり推進課長	川名 啓之
見沼田圃政策推進課長	小原 章裕
みどり推進課	課長補佐兼係長 肥田 利弘
	課長補佐兼係長 佐久間 新
	主査 山崎 淳、主任 児玉 将吾、
	主事 清水 伴泰、主事 武井 健太
見沼田圃政策推進課	係長 斎藤 綾架、主査 大橋 賢

3 傍聴者数

0人

4 議事概要

(1) 議題及び報告事項

福岡会長 それでは令和7年度第2回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会の議事に入ります。本日の議題はリーディングプロジェクトの取り組み状況についてです。リーディングプロジェクト1から3で区切ってご議論いただきたいと思いますので、まずはリーディングプロジェクト1について事務局からご説明をお願いします。

事務局 [資料1 リーディングプロジェクト1の説明]

福岡会長 ご説明ありがとうございました。リーディングプロジェクト1の説明に関して、ご意見コメント等ありますか。

新保委員 ご説明いただきありがとうございました。非常に意欲的にプロジェクトを進められていて、緻密に評価もされており、非常に素晴らしいと感じております。ストリートプランツとグリーンインフラの可視化で一つずつコメントですが、ストリートプランツの方に関しては、5ページ目の維持管理者のヒアリングの設置効果で、水やりの際に声をかけてもらうことが何度かあり、嬉しかったというコメントがあります。こちら、結構重要な点と思っておりまして、緑があることで滞留する効果も大事ですが、そこでさらに交流も生まれるというソーシャルな役割をもっと重視しても良いと思いました。それによって賑わいが生まれたり、知り合いのつながりが生まれて、何かあった時に助け合う関係も生まれるかもしれないし、こういった機能をぜひ重視していくと良いと思いました。海外の事例でも、このような路上に緑を増やすような動きでソーシャルな交流の場面を重視しているというところもあるので、ぜひさいたま市でもやっていくと良いと思いました。

次にグリーンインフラの可視化のところで、全体的なコメントになりますが、こちらは他の自治体ではなかなかここまでのことはできない中で、非常に高度なことをやっていて、現場の省力化にもつながるのではないかなと思いますし、緑の効果を見せて、様々な方を説得するのに非常に有効な取り組みだと思います。さいたま市がこの効果を享受するのももちろんですが、他の自治体がこういうことをやれるようにするためにも、ぜひ色々な場で発表したり、緑関係の賞に応募いただいて、先進的な事例としてアピールいただけると良いと思いました。

福岡会長 ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

土屋委員 ご説明ありがとうございました。グリーンインフラの可視化のところですが、これをどのように活用していくのがすごく大事だと思っていて、現時点で、説明の最後のところでいくつか例を挙げていただきましたが、こういったところで活用されるのか、お考えがあれば伺いたいと思います。

福岡会長 はい、ありがとうございました。新保委員と土屋委員のご意見に関して、事務局から何かございましたらコメントをお願いします。

事務局 ご意見ありがとうございます。まずは、コメントをいただきました新保委員ありがとうございました。利用者との交流のところで、テナントの水やり協力してくださっている方々も、お声かけいただくのはかなり嬉しく感じていたというところもございましたので、こういった部分であったり、あとはテナント同士でも、水やりの担当を週替わりでやって交流が生まれていたというところもありますので、これらについてガイドライン化するところで意識して書かせていただきたいと思います。あとはグリーンインフラの可視化の賞への応募について、我々も外向けに発信をしていくというところで、様々な可能性を検討していきたいと思います。ありがとうございます。

続いて、土屋委員からご意見ございました今後の活用についてですが、大きくは3つを考えております。まずは資料に記載のある部分で、特にグリーンインフラそのものの役割や、さいたま市内のグリーンインフラがどれだけ効果を発揮しているかというところの、市民へのPRという形で、一つ使わせていただきたいというのが1つ。もう1つが、庁内で政策判断をするときに、グリーンインフラを導入した場合には他の事業と比べて導入した効果がどれだけ高いのか、その後の維持管理の面も考えると本当に導入すべきなのか、それらが予算も含めてネックになっている部分がありますので、庁内でグリーンインフラを導入することによってどれだけの成果が得られるか、グリーンインフラという面から政策の判断が優位に動くように、庁内の活用パターンについて今後整理をしていきたいと考えております。

あともう1つ、例としては挙げていないのですが、3D都市モデルの植生モデルというものが、現状さいたま市内では新都心のけやき広場の一部を除いて、整備されてない状態なので、3D都市モデルとして他のデータと合わせてシミュレーションする際に、樹木関係のデータが穴抜けになってしまっているところがありますので、ここをしっかりと取り込んでいくことによって、我々だけではなく民間企業等にも、さいたま市内で事業を考える際のシミュレーションにしっかりと樹木の情報を取り

込んでいただきたいと考えております。大きくこの3パターンで活用をしていただくことを考えております。以上でございます。

福岡会長 はい。ありがとうございました。土屋委員からコメントありますか。

土屋委員 ありがとうございます。評価マップを作ったはいいいけども活用がうまくいかないという声も聞いたことがありますので、例えば公園の整備優先地域を炙り出しても、結局その公園を整備するのは財政的なこともあってなかなか容易ではないと思います。どちらかという逆いくつか重要なプロジェクトがあると思いますので、セントラルパークの話や市役所庁舎の話など、それらの周辺環境の整備のときにどういう方向性で持っていくのかという、そのプロジェクトベースで活用することもお考えいただけるといいのかと思っております。

福岡会長 はい、ありがとうございました。その他の委員の皆様からご意見コメントありましたらお願いいたします。

高橋委員 高橋に代わり、加藤が出席しています。ご説明ありがとうございます。
(代理加藤氏) 先ほどの土屋委員のご質問と関連していますが、我々県でもみどりの関係について色々と勉強しているところですが、野生生物が生息生育できるような場所を繋げていくエコロジカルネットワークの形成が重要であると考えております。資料10ページを拝見しますと、生物多様性、保全機能のところの評価指標でコゲラというのが挙げられておりまして、コゲラというのはエコロジカルネットワークの形成にあたっての指標の一つになると考えております。今後のエコロジカルネットワーク形成に向けて、お考えなどございましたら教えて頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

福岡会長 ありがとうございます。それでは事務局の方からお願いします。

事務局 ご意見いただきましてありがとうございます。委員おっしゃられたように、生物多様性という視点でコゲラの生息適地面積率を挙げております。エコロジカルネットワークの形成では、緑のつながりが重要と考えています。今回はコゲラというのが、都市型の鳥類になりますが、一定程度のまとまりがある緑であったり、そこから餌を取りに行くのに飛んでいける小さなまとまりの緑が点在することによって、コゲラの生息に適している場所になりますので、まさにエコロジカルネットワークというところとつながってくると思っております。さいたま市内では、資料

の地図上の色の白いところがエコロジカルネットワーク的にも薄い部分だと思しますので、一概にそういったところに新しく巨大な緑を作れるかという点も難しいですが、さいたま市でも環境局でネイチャーポジティブをメインでやっており、環境局の方でも自然共生サイトの指定や既存の緑についても位置づけを明確にしながら、担保性を増しているような取り組みもしておりますので、まずは既存の緑を守りつつ、新しく公園整備や開発が行われる際にはきっちりと緑を確保していく。大きくこの2つの方向性で進めたいと考えております。

福岡会長 ありがとうございます。加藤さんからご意見などございますか。

高橋委員 ありがとうございます。引き続きご協力させていただきたいと思
(代理加藤氏) いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

福岡会長 ありがとうございます。それでは続きまして黒田委員お願いします。

黒田委員 大宮ストリートプランツについて質問いたします。1つ目は、今回は6カ月間に渡り設置されましたが、長期的にストリートプランツを置くことを前提に進めていくのか、今後のプランを教えてください。2つ目は、今回の大宮ストリートプランツの維持管理者はどういった方々で構成されていたのか教えてください。3つ目は維持管理者の方のコメントに、水やりが負担になるという声がありました。今後、場所によっては自動散水を考えてもいいと思いますが、いかがでしょうか。最後に、土の入替え作業についてです。水やりと同様にストリートプランツのプランターの土の入替え作業は、古い土を廃棄したり、新しい土を買ったりと市民ボランティア活動に大きな負担になっています。行政で土リサイクルのしくみ作りについてお考えがありましたら教えてください。以上、よろしくお願いいたします。

福岡会長 黒田委員にありがとうございました。全部で4つあったかと思いますが、事務局の方からお願いします。

事務局 ご意見いただきましてありがとうございます。まず1つ目の長期間設置を今後も継続するかについてですが、お答えとしては、場所ごとにケースバイケースになると考えております。今回検証実施した大宮門町前の歩道部や、そのような場所につきましては、特に大宮ですと、夏の期間に夏祭りでもどうしても場所を開放しなければならないタイミングが

あったり、長期間の設置になった場合に枯れが生じてしまったり、樹木の入れ替えが課題になってくるところがありましたので、そちらについては、枯れが生じてストリートプランツの事業自体のイメージを損なわない範囲で、かつ維持管理費協賛をいただいておりますけれども、それらのバランスも見ながら、できるだけ長く設置していけるように考えていきたいと考えております。

2つ目の維持管理者の構成について、今回大宮門町前と埼玉りそな銀行大宮支店前で実施しておりますけれども、大宮門町前のところでは、主に大宮門町のテナントさんの方々にご協力いただいております。

3つ目の水やり負担の自動散水について、負担軽減策として過去に検討したことはありますが、条件として水を引っ張れる環境にあるかという点と、水やり自体が事業者間のネットワーク構築だったり、市民、利用者の方とのつながりで良いお声をいただいていたところでしたので、こちらについてはこれまでのやり方を継続していきたいと考えております。

最後、4つ目、土のリサイクルについて、現状のストリートプランツにつきましては、植木は根と土とセットで布製のもので包み、それをプランターに上から載せているような形になりまして、その土の部分も含めて植木をリースという扱いでお返しをしております。そのため、今後これまでと異なるパターンのストリートプランツを検討する際には、土のリサイクルの点も検討材料にしたいと思っております。以上でございます。

福岡会長 はい。ありがとうございます。その他、ぜひ委員の皆様からご意見いただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

渡邊委員 資料11ページのグリーンインフラの可視化に向けた動きのページの右下なのですが、大宮駅周辺の地表面温度について、大宮駅周辺はビル影の影響で地表面温度が低く、駅の南西駅は地表面温度が比較的高いと記載がございます。色々と取り組まれているプロジェクトのお話を伺っていて、やはりポイント的に都心部というか駅周辺などの人が集まるところを重点的にまず取り組まれるというところだと思いますが、宅地や駅から少し離れたエリアでグリーンインフラの可視化の取り組みをされる場合、今回の取り組まれて得た色々な検証データをどうやって活用していくのかというところと、同じようなポイントですが、例えば西大宮駅周辺など一斉に宅地化が進んだエリアになりますが、あの周辺は建売住宅が一斉にできて土地に対しての庭の面積があまり大きくないようなお宅が一斉に広がっているイメージがありまして、そういった新興

住宅地におけるグリーンインフラのあり方など都市計画に関係すると思ひまして、市のお考えをお聞かせいただければと思ひます。

福岡会長 はい。渡邊委員ありがとうございました。それでは事務局からお願いします。

事務局 はい、ありがとうございます。まずは、今回のデータ活用で特に都市部以外の部分をどうしていくかというところですが、今回グリーンインフラの可視化、冒頭でお話したように大きく2つの方向性で動いておりまして、1つ目は樹木1本1本のデータを取得していくところで、さいたま市は公共空間の樹木について電子的に樹木の情報を整備して更新というのができてない状況なので、1本1本のデータについては、調査していくにも時間とお金がかかるため、特に都市部をメインで動いております。もう1つのグリーンインフラの評価の方については、これは都市部に限らず、市街化区域と市街化調整区域とで、評価を相対的にするにあたって分けてはいますが、市内全域について対象としてやっております。もう1つおっしゃっていた西大宮などの新興住宅地におけるグリーンインフラのあり方についてですが、今回グリーンインフラの可視化で、地域ブロック単位で12項目全て点数を出しているところですので、例えば個別に西大宮のエリアをホイールチャートで表現した際に大きく3つの視点、気候変動・生物多様性・ウェルビーイングがありましたので、このあたりで弱い部分を割り出して今後の方策を検討したり、あるいは今回12項目全てについて設定はできなかったのですが、国全体の指標や市としての目標で基準値になるようなものがあつたら、それに対して個別のブロックの数字が充足しているかどうか、そのあたりを見極めながら、必要な政策を打ち出していきたいと考えております。

福岡会長 ありがとうございます。まだ時間がもう少しありますので、委員の皆様もし追加でご意見ありますでしょうか。

加倉井委員 はい。ストリートプランツで歩道上に植物を置きましたが、さいたま市内でマンションや浦和駅前にも大きな商業施設ができて、巨大なビルが増えていますが、その屋上の気温上昇を防ぐために、ストリートプランツのような屋上緑化を行って、気温の上昇を下げるような取り組みを今後できますでしょうか。

福岡会長 はい、加倉井委員ありがとうございます。それでは事務局お願いします。

事務局

はい。ご意見頂戴しましてありがとうございます。まず、マンション屋上の緑化につきまして、今回ストリートプランツに関してご意見頂戴しておりますけれども、ストリートプランツを活用するという点ですと、まずストリートプランツ自体が滞在性の向上も担っていますので、マンションの屋上がある程度の公開性のある場所であったり、あるいは市の事業として実施するという性質上、マンション自体の管理に市が携わっているなど、公的な扱いができるかどうかという点が一つ判断の分かれ目になると思います。それ以外にも、建物自体の屋上緑化や壁面緑化は、さいたま市として助成金の事業をやっており、また開発に伴っての緑化の指導を行う際にも敷地以外の緑化も促進させていただいているところですので、それらを条件によって組み合わせながら実施をできたらと思っております。

福岡会長

はい、ありがとうございました。今のお話ですと、さいたま市がリーディングプロジェクトとして取り組まれているグリーンインフラの可視化が多分素晴らしい取り組みだと思うのですが、ゆくゆくは、住宅メーカーや事業者、市民の方々が街で使っていくために、どうやってグリーンインフラを適用するのかという、それをタイプ別に、開発のタイプとか、敷地のタイプ別に作っていくのがいいのか、ガイドラインなのか分かりませんが、そのようにどこかで舵切りをしていくというご意見であると思いました。そのあたりは、今後の課題として考えていく必要があるとご意見いただきながら思いました。

はい。その他、いかがでしょうか。吉沢委員お願いします。

吉沢委員

ご説明ありがとうございました。私もストリートプランツについて1点質問させていただきたいです。今回設置した場所については、開発に伴うオープンスペースを活用したということですが、市内で見て、今後の開発に伴うオープンスペースへの展開にあたって、オープンスペースが生じるのは地下鉄事業が予定されているような都心地区にある程度限られてしまう気がしており、今後の展開として、例えばこういった事業を他の場所でやっていこうというお考えがまだあるのか、あるいは、これはこれとして定義されて、今後ストリートプランツに変わる何かという形でやっていくのか、オープンスペースの有効活用という視点などで、そういった活用を今後も検討されていくのでしょうか。

福岡会長

はい。ありがとうございます。事務局お願いします。

事務局 はい、ご意見頂戴しましてありがとうございます。委員おっしゃられたように、ストリートプランツの設置に関しては、開発等によって作られた広大なスペースが設置するにあたって適しておりまして、あとはストリートプランツ自体がグリーンインフラの力を活用して特に街の回遊性や滞在性の向上につながることを1つの目的にしております。最初に大宮でスタートした経緯につきまして、もともと大宮の中央通りで植木市場が開催されていた背景もあるのと、大宮駅は乗降客数が多いですが街に繰り出している滞在人口が少ないという課題もありまして、それらから都市部の大宮での展開をしてきました。そのため、ストリートプランツを今後他のエリアへの展開の検討を進めていきますが、基本的に順番としては都心部、大宮以外で言うと、浦和やさいたま新都心を、次の展開先として考えてございます。

福岡会長 ありがとうございます。煙山委員、もしご意見あればお願いします。

煙山委員 ありがとうございます。ストリートプランツにつきましては、6ページのところで緑化滞在空間ガイドライン反映していくとありますが、こちらのガイドラインは元々あるものを更新していくイメージなのでしょうか。このガイドラインにおいてストリートプランツ事業を先進的な取組としてご紹介いただき、他の自治体にも汎用していけると良いと思っておりますので、ぜひ我々も紹介していきたいと思っているので、そこを教えていただければと思います。

また8ページの樹木の調査手法についてご紹介いただいている、すごく省力化にもなる事例だと思ひまして、こちらの樹木のデータ収集について、他の公園や街路樹など緑地全般に広げていくような方向性なのか、お伺いできればと思っております。以上です。

福岡会長 はい。煙山委員ありがとうございます。それでは事務局お願いします。

事務局 はい、ご意見頂戴しましてありがとうございます。まず1つ目の緑化滞在空間ガイドラインですが、こちらは未だ公表はしていませんが、昨年までの段階で、一度たたき台に近いものを取りまとめております。社会実験としては今年度まで継続でして、特に今年度は運用面の検証を多く入れたので、その内容で最後更新を行い、場合によっては、デザインを入れるかどうかという議論もありますので、それらを経て、最終的には外に出していきたいと考えております。もう1つの、樹木の調査を緑地などの緑全般に対して進めていくかどうかについてですが、こちらに

関しましては、樹木のデータとしては、公園や緑地の全てが整備されているという状態ではないですが、例えば公園だけを取っても、さいたま市内は 1,000 公園ほどある状況で、一概に全てやっていきますと言えるような段階に今はなっておりません。まずは 3D 都市モデルとの連携を見据えて、都市部の方のデータを構築していくところと、あと街路樹に関してはこれらのやり方以外に、車に LiDAR 測定器を積む MMS という手法もありますので、公園、街路樹、緑地という分野別にやり方を変えて広げていったり、あるいは調査自体を市の職員だけで実施できるような体制を整えば、維持管理をしている公園とか緑地についても少しずつ調査範囲を広げていくという、将来的にはそういったところも見えてくるかなと思っております。以上でございます。

福岡会長

はい。ありがとうございました。それでは最後に私の方からも 1, 2 点コメントしたいと思います。先ほど、煙山委員からご質問がありました樹木調査の話です。これは通常ですと、台帳があつて横直径とか樹高とか、それらをきちんと測っているデータベースの話と、多分リーディングプロジェクトで、それを 3 次元化するであるとか、様々な測定の仕方を取るによってそれぞれのやり方に一長一短あると思います。地上部から測ると地上部の幹はしっかり測れますが、樹幹の部分は測れませんし、ドローンで上から測りますと樹幹は捉えられますが、地上部は分かりにくいということがあると思います。

研究も進んでいると思いますが、大まかに樹木を外形から見て、その状態を把握するとか、診断とまではいかないでしょうが外部の損傷状況などが、上空からと地上から取れるのが強みだと思います。一方で、樹木医という制度もありますし、きちんと診断をしてみていくということと併用しながら、デジタルでまず外科診断みたいのをやってそこから重点的にやっていくのか。活用の仕方ですね。なので、既存の様々な手法も全く駄目というわけではないので、それらをどうやって組み合わせつつ、これからの市の政策の中に盛り込んでいくのかというところで、先端的な使い方を探求するというやり方だとか、全般的に広く何かにターゲットを絞ってそれを活用していくのかというところは、方向性が違うと思いますので、その点もし分かれば教えていただきたいなと思いました。あとは、7 ページから 9 ページの様々な可視化の手法検討が素晴らしいと思いますが、この可視化はある程度色々試行してきたので、それを次にどのようにしてガイドラインや、実際にグリーンインフラを実装していく中で生かしていくのかということが大事なのかなと思います。そのあたりをこれから整理していくのか。2 点になりますが、お答えいただければと思います。

事務局

はい、ありがとうございます。まず1点目の樹木調査のやり方、大きく3パターンほど示させていただきましたけれども、福岡会長がおっしゃるように、樹木調査手法によって得られるデータが若干異なってきます。例えば今回でいきますと、ライダー系の計測では、樹種の判定まではできないようになっていきますので、樹種はどうしても従来型の毎木調査の手法で取得をしていたり、あとはLiDAR計測でも簡易なハンディスキャナータイプのものを実施する場合には、樹幹幅などの測定ができなくなってしまいます。ただ、この取得したデータの使い方として、例えばその樹幹幅等のデータで言うと、CO₂の吸収量の算定や、雨水浸透量を算定する際の精度の向上につながったりします。ただ、樹木1本1本の吸収量について、どこまで精度を求めるかについては、活用の仕方などがあると思いますし、あとは3D都市モデルに樹木の形状を落とし込んでいく際にも、1本1本樹木の大きさとか形を、本当に実際に近い形で表現するのは、今の技術ではなかなか難しく、ある程度大きさのパターン、テンプレートをいくつか作って、それに近いものを当て込んでいくというあのやり方になっていきますので、現状としては、今ここで整理したやり方程度で、活用としては十分なのではないかと考えております。維持管理という側面でも、今回は胸高直径、樹木の高さ、位置情報、これらが特に重要になってきますので、そのあたりは押さえられていくと思っています。あともう1つの可視化部分の、特にガイドライン化やその先の部分につきましては、冒頭の説明でもあったように、今後の活用の仕方のパターンはいくつか示させていただいたのですが、まだ我々としても整理をしているところですので、外に情報として出していくために、ガイドラインとしてまとめるということも選択肢になってくると考えております。以上でございます。

福岡会長

はい、ありがとうございました。それから委員の皆さんも活発なご意見いただき ありがとうございました。それでは続きまして、リーディングプロジェクト2の説明の方を事務局からお願いします。

事務局

〔資料1 リーディングプロジェクト2の説明〕

福岡会長

リーディングプロジェクト2の説明ありがとうございました。ガーデンツーリズムの取り組みについて委員の皆様からご意見、コメント等ありましたら、よろしくお願い致します。

加倉井委員

私ども見沼自然公園から國昌寺にかけてのあたりで団体活動してい

ますが、代用水の右岸と左岸について、右岸は使えるけども左岸は全く通れないという仕組みになっていて、見沼田んぼ周辺で繋がった地域資源というこの図を見ますと、この丸の点をずっと繋げると見沼田んぼを一周できるような回廊ができるのではないかと考えています。桜回廊もいいですけども、桜の開花時期がものすごく短くて、2週間経つと花が落ちて葉っぱになってしまって、せっかくある見沼田んぼの大変有意義な資産を、回廊を作って有効利用していただきたいと考えていまして、そこでネックになっているのは、車の通行と人の通行が混じっている場所。完全に人と自転車しか通れない場所とか、今ごちゃごちゃの状態です。これを将来的にぜひ調べていただいて、自転車及び人が車の心配なしに見沼田んぼをぐるっと回れる仕組みを作っていただければよろしいかと思います。例えば日本では佐世保市に自転車しか通れない専用の道があったり、シンガポールでは回廊ができていると聞いていますので、ぜひ見沼田んぼを将来、首都圏からわずか20キロ、東京から20キロしか離れていない絶対的な緑地空間ですので、この有効利用をお願いできたらと考えています。以上です。

福岡会長 はい。加倉井委員ありがとうございました。それでは、事務局からコメントあればお願いします。

事務局 ご意見ありがとうございます。おっしゃられたとおり、東京から20キロという都心からのアクセスの良さを有意義に有効利用すべきものと感じており、また桜についても開花期間が短いといったお話がありましたが、ガーデンツーリズムも期間を少し絞った打ち出し方も考えながら、もちろん桜以外のものもありますので、こういった増やし方をしていくか、今後きちんと検討していきたいと考えております。また、先ほどご意見もありましたとおり、ワークショップにおいても見沼田んぼ内に車通りが意外と多いという意見がありました。今現時点では地域資源をマップ上に落とし込むようなレベル感ですが、今後それらをオープンにしたり打ち出していきたいです。実際に観光客が来ていただくような場合は、交通量も踏まえたルート設定ですとか、それらをきちんと整理しながら、ルートを決めていきたいと考えているところです。ご意見ありがとうございました。

加倉井委員 追加でいいですか。

福岡会長 はい、お願いします。

加倉井委員 実は見沼田んぼ周辺には、私どもが調査した時には 135 箇所の斜面林がありまして、その斜面林というのは、茨城県、千葉県、埼玉県の、これら洪積台地の周辺にある特別な景観ですので、ぜひその斜面林も含めて、その斜面林をぐるっと回るととても健康になるというような形で、有効利用していただけたらと思います。斜面林が消える一因に相続の問題がありまして、とても難しい問題ですが、その辺も考慮していただいて、ぜひこの斜面林の有効活用をお願いしたいと思います。

福岡会長 加倉井委員ありがとうございました。それではその他ご意見コメントあればお願いします。

黒田委員 はい。ガーデンツーリズムワークショップに毎回参加させていただいています。今回はラウンドテーブルディスカッション形式で、さまざまな意見が出て楽しいワークショップでした。「取り組みのアイデア」では、クイズの出題、ノベルティを用意する、また AI を活用し VR グラスや AR グラスを着用しながらツーリズムを楽しむ意見も出て驚きました。

私にとってのガーデンツーリズムは、木漏れ日や風を感じながら、“まち”にある“自然”の中を歩き、木々やまちの歴史を知りたいと思っています。そういった自然からの学びの第一歩として、木々や花の名前や由来が子供たちにもわかるよう木々にネームプレートを設置する整備を進めていただきたいと思います。ご検討いただきたくよろしく願いいたします。

福岡会長 はい。黒田委員ありがとうございました。もし事務局からコメントあれば。

事務局 はい。ありがとうございました。先ほどの加倉井委員からのお話も含めて、今後の参考となるご意見をいただきました。加倉井委員からは健康に主眼を置いたヒントをいただき、あと黒田委員からは、教育と絡めたところや散策する中でも木があるだけではなく、実際にネームプレートがあるほうが回っていただく方の知識や他の色々な場所でも活用できるというご意見かと思います。将来的になりますが、そういった整備ももちろんですが、先ほどありました可視化の事業とも今後どこかで重なる部分があれば、例えば散策ルートにおいて可視化の機能を使って木の名前や二酸化炭素吸収量が見えるような仕掛けも今後模索をしていきたいと考えております。

福岡会長 ありがとうございます。その他はいかがでしょう。煙山委員お願いします。

煙山委員 はい、ご説明ありがとうございました。令和5年度からガーデンツーリズムワークショップを進めていて、各地区の地域資源について網羅的に把握したところだと思いますが、実際にガーデンツーリズムの登録に向けて進めていくところで、統一的なテーマ性が非常に重要になってくると思いますので、今は要素を一つずつ集めているところかと思いますが、来年度以降はどういったテーマを設けて、施設や庭園などの地域資源のところを設定して行くのか。ワークショップにご参加いただいた方々の意見を踏まえつつ、その部分の検討を少し進めていただければ非常にありがたいと思っております。

福岡会長 はい。煙山委員ありがとうございました。事務局から今のテーマ性についてコメントありますか。

事務局 はい。ご意見ありがとうございます。おっしゃっていただいたテーマについても今後、国土交通省への登録にあたって必要なものと認識しています。今時点では、歴史や生物多様性、グルメなどのテーマやコンセプトが上がっていますので、それらを活用しながら、今後の検討会で意見交換しながら検討していきたいと考えております。ご意見ありがとうございました。

福岡会長 はい。ありがとうございます。その他よろしいですか。それでは渡邊委員お願いします。

渡邊委員 見沼田んぼに関してコメントしたいと思います。見沼田んぼというエリアを、私は全部回ったことがないという前提でお話しているので、認識不足であることを前提にお話させていただきます。先ほど、加倉井委員の方から、自転車と歩行者、自動車が混ざっているという話の関係ですが、私個人の意見としましては、見沼田んぼ全体を回遊するには時間があるときでないと難しいというところと、あと見沼田んぼ全体通して、そのエリアごとに色々なものがあったり、その行く人の目的に合うか合わないかというか、色々なスポットがありまして、もう少し短時間でパッと関心のあるエリアに行けるようなPRの仕方もいいのかなと思っています。あとは、アクセスという意味で、特に子育て世代の方とか、さいたま市でも中心になっていくような世代だと思うのですが、週

末でも共働きで忙しかったりして、行ってみたいけど、歩いたりシェアサイクルっていうのも、時間がかかったりするような部分もあるので、ところどころにパーキングスペースを設けて、関心があるところに直接立ち寄って、何回かに分けて回れるような取り組みをしてもいいのかなと思いました。あと、交通の面ですが、氷川神社の参道のところに、さいたま市の取り組みなのかが分かりませんが、珍しいクルマのライドシェアのようなものが試験的に置かれていたのを見まして、そのような気軽に回遊で、ちょっと覗いてみたりして、アクティビティというか、乗り物好きな人にも来ていただけるような、そういう面白さがあっているのかなとも思って、道路の使い方の工夫は必要だと思いますが、そういった要素も取り入れていただきたいと思います。以上です。

福岡会長 渡邊委員ありがとうございました、事務局の方から何かコメントあればお願いします。

事務局 はい。ありがとうございます。確かにですね、見沼田んぼはかなり面積が広いところですので、一日で回るのが難しいかと思います。それらもそれぞれ感じるところが異なってくるかとは思いますが、例えば全体のルートも設定しながら、短距離ルートの方も設けていくなどの検討もしていきたいです。あとは交通のところ、ライドシェアといったご意見もございました。シェアサイクルなど多様化してきているので、交通手段を運用している事業者さんとも今後連携をしながら、協議会を設立していくことも現時点で考えており、それらと連携して、ポートを増やしていただくだとか、具体的なお話ができていければと考えております。以上です。

福岡会長 はい、ありがとうございました。それでは、リーディングプロジェクト3、こちらも続けて事務局よりご説明いただきまして、リーディングプロジェクト2について後ほど追加でコメントをいただきたいと思います。それでは事務局の方から、リーディングプロジェクト3の説明をお願いいたします。

事務局 〔資料1 リーディングプロジェクト3の説明〕

福岡会長 はい。ありがとうございました。以上でリーディングプロジェクト3のご説明が終了しましたので、ぜひ委員の皆様からご意見コメントあればよろしくお願いします。

新保委員

ご説明ありがとうございました。先ほどのリーディングプロジェクト2についてもいくつかコメントをさせていただければと思います。リーディングプロジェクト2のガーデンツーリズムの方に関して、先ほど加倉井委員から歩きやすい緑道整備と健康のお話もぜひというお話がありました。私も歩くと健康になるという点はアピールした方が、市民のウェルビーイング向上と社会保障費削減のための取り組みとして非常に良いと思っております。道路や健康促進の部局と施策連携することになると思いますので、組織の横の横断をしなければいけないと思いますが、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。また、あの緑区と見沼区など、各区でオープンガーデンの取り組みもされていると思いますので、そうした民家のお庭のほうの施策ともぜひ連携させると良いかと思います。またガーデンツーリズムのルートが今後検討されて登録された後も、意見や写真などをSNSでうまく使うなどして、集めていってアップデートをして、発信の仕方を工夫していくことも重要と感じました。リーディングプロジェクト3の方に関しまして、芝浦工業大学さんとの連携に関して、その学生が入れ替わってしまう問題に関して、確かに学生は同じ単位を重ねて取れないですが、ティーチングアシスタントの制度などを使えば、前年度履修した学生をアルバイトで雇用して、1人か2人をメンターとして入れると継承される可能性はあると思いました。予算を付ける必要がありますが、そういった方法はあると思います。また、NPOとの連携した緑地の整備に関して、柏市にある里山の管理の市民団体さんなどは作業の後に芋煮会をしたり、ご飯と一緒に食べることをよくされていると思います。仕事の後のご飯は、格別に美味しいのと、皆さんとの絆を深めるところもあって、やりがいも生み出すかなと思いますので、そういった要素を入れるのが良いと思います。そのための空間整備として、丸太のベンチを置くなども必要と思うのですが、そういったことをご検討されると良いと思いました。以上です。

福岡会長

はい、新保委員、ありがとうございました。リーディングプロジェクト2と3の両方ご意見いただきましたので、ぜひ事務局の方からコメントをお願いします。

事務局

はい。ご意見ありがとうございます。ガーデンツーリズムの方についてもご意見ありがとうございます。我々の方でも、健康増進にもフォーカスしながら、ただ回廊していただくだけでなく、そういった意味を持たせたガーデンツーリズムにしていければと考えております。また、健康増進や道路部局、オープンガーデンも実際に行なっておりますので、

オープンガーデンについてもガーデンツーリズムと非常に親和性があるものと認識しておりますので、企業とだけではなく、内部の横の横断についてもしっかりと努めていきたいと考えています。また、せっかく実施しただけではもったいないので、ご意見いただきましたとおり、SNS等で実施したものをしっかりと発信していくことを努めていきたいと考えております。ご意見ございがとうございます。

福岡会長 はい。それでは続いて、リーディングプロジェクト3のご意見に関して、事務局からお願いします。

事務局 はい。ご意見ありがとうございます。芝浦工業大学との連携の件ですが、イベントを今後進めていくための継続性の担保の問題でしたので、前年度やっていただいた学生さんが引き続き先生役としてやっていただけるのであれば、かなり良い方向に進んでいくと思います。また NPO 法人の件で柏市の例ではありましたが、芋煮会ですね、ボランティア参加者の方にとって、すごくインセンティブになると思いますので、今後の岩槻区の裏慈恩寺緑地の方向性を定めるにあたって、ぜひとも参考にさせていただければと思います。ご意見ありがとうございます。

福岡会長 はい。ありがとうございます。その他ご意見コメントありましたらお願いします。

加倉井委員 見沼田んぼにおけるカーボンマイナスの取り組みの中で、さいたま市はモリंगाを対象にしていますが、先日緑区の主催で「きれいきれい大作戦」という清掃活動に参加しました。市立病院の周辺にヨシが残っていました。見沼田んぼはもともとヨシ原だったのですが、自然に放置しておくともヨシ原になるんですけども、実はこのヨシは残ったところは残っているのですが、農業委員会の指導で全部借りなさいという指導を入れて、いわゆる産廃として処理してしまう。結構もったいないことをやっていると思います。もしヨシ原を実現して炭化処理の一部に混ぜることができれば、かなりカーボンマイナスに貢献するのではないかと思います。合わせて、セイタカアワダチソウが敵のような扱いになっていますが、これもかなり炭素を吸収しますので、セイタカアワダチソウ、ヨシ、それからオギですね、セイタカアワダチソウは在来ではありませんが、ヨシ、オギなどの、在来のいわゆる雑草と呼ばれる類のイネ科の植物をうまく利用できれば、見沼田んぼがより良くカーボンマイナスに取り組めるのではないかと考えていまして、埼玉県ではエリアンサスを導入しようという心にはあるようですので、エリアンサスはイネ科です

がサトウキビに近い植物ですので、種ができて飛散してしまうことがありますので、外来の飛散はヨシやオギを使えば防げると思います。検討していただけたらと思います。以上です。

福岡会長 はい、加倉井委員ありがとうございました。ただいまのご意見に関して、事務局からコメントあればお願いします。

事務局 加倉井委員、貴重なご意見ありがとうございました。私どもで、モリンガでバイオ炭を作成していますが、見沼田んぼの他の資源で、例えば桜回廊の桜の剪定した枝を考えていたのですが、イネ科のオギやヨシ、外来植物のセイタカアワダチソウを炭化するというアイデアがなくて、今回アイデアをいただきましたので、大学等と連携して研究を前向きに進めていくよう話をしていきたいと思っております。ありがとうございました。

福岡会長 はい。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。土屋委員お願いします。

土屋委員 ご説明ありがとうございました。見沼田んぼのカーボンマイナスのところですが、もともとの動機として遊休農地の活用に関してが大きいのかなと理解いたしました。その点に照らし合わせて、今後どうやってそれを遊休農地の解消や活用につなげていくのかを伺えればと思います。

福岡会長 はい。ありがとうございます。遊休農地の活用の方策について、事務局からよろしくお願いします。

事務局 はい。遊休農地の活用につきましては、スライドの最後 33 ページになりまして、モリンガを対象としています。作物の消費を促すということもあり、モリンガがカーボンマイナス、要は消費以外の点での素晴らしい効果があるので、そういった面も含めて生かしていきたいと考えております。消費といった点やカーボンマイナスを進めていって、その先に例えばカーボンマイナスに貢献する作物というようなブランド化や、カーボンクレジットなど新しい収益になるような方向性で進めていきたいと考えております。

福岡会長 はい。土屋委員お願いします。

土屋委員 ご回答ありがとうございます。大きく 2 つ方向性があると思いまし

て、1つは遊休農地がこれだけの面積ある中で、これぐらいを活用することを目標にして、その中で、こういう取り組みがこの程度貢献していくという数字で積み上げていくような考え方が1つあると思います。その点をご検討されていることがもしかしたらあるかと思います。もう1つは、あまり数字にこだわらずに、もう少し地域資源の活用というか、先ほど加倉井委員からお話しがあったようなところで、この課題は農家さんはじめ様々な方々と地域資源を発見していく、まさに先ほどのガーデンツーリズムのようなアプローチをもう少し活用されてもいいのかなと感じましたので、ご検討いただければ幸いです。

福岡会長

はい。土屋委員ありがとうございました。多分、今のリーディングプロジェクトとしては、建て付けは見沼田んぼの話と先ほどの芝浦工業大学の意見など、所感が分かれていると思いますが、ガーデンツーリズムのリーディングプロジェクト2で、そこから含めて、部署間連携、政策間連携、主体間連携のようなことを横串刺していく上では、すごくやりがいがあるプロジェクトなのかと思いました。その上で、先ほど話があった遊休農地の今の状態からの活用ですが、今後、無理をせずにオギやヨシに戻して、それを漉き込んでいって活用するようなこともあるかもしれませんし、もしかしたらモリंगाみたいなものがプロジェクトとしてあるかもしれません。色々なオプションがある中でこのお話だということだと思うのですが、多分そのあたりが少し見えにくい点があるかと思いますので、今後に向けてはそういったところを少し可視化していただいたり、数値化していただけるといいのかと思いました。ありがとうございます。

渡邊委員

2点ございます。モリंगाを炭化するための実験を今月末にされる予定とのことですが、そのための炭化するエネルギー源はどういったものを使っているのかが質問で、意見としましては、農作業のボランティア人材が不足している課題があるという話だったので、そういった人材を育成するための教育や講習会を市として重点的に取り組まれるのが良いと思いました。

福岡会長

はい、ありがとうございます。それでは事務局の方からお願いします。

事務局

はい。まず3月下旬に行う予定の炭化について、吉川市に炭化する工場がありまして、燃料がどういうものかが現時点で確認できていないですが、その工場を活用してモリंगाを実験的に炭化していこうと考えております。それと、モリंगाの伐採などの人材育成や講習会につきまし

ては、色々な方に農業の管理を学んでいただくことは重要だと思いますので、そういった面も含めて今後検討していきたいと考えております。

福岡会長

はい、ありがとうございました。今リーディングプロジェクト3の中で、私も1点だけ申し上げさせていただきますと、1つ目の方は、芝浦工大さんと NPO 法人さんとの連携は素晴らしいと思うのですが、緑とか花とか、それから生き物とか川とかの諸団体ってすごくたくさんあると思ってまして、そういった緑地や川、それから自然地には必ずそういった団体がおられると思います。それらとの連携、大学高校中学校小学校も含めてどうやってそれを振り付けていくのかという上での、今日の2団体からの取り組みだったと思いますが、さいたま市の方で、積極的に働きかけてやるところと、ある程度もう自立的に動いているところと、あとは今回のように大学とマッチングすることで動けないけども大学生が入ることで、できないことがこうできるんだったみたいなことで、様々なマッチングがあると思いますので、それら主体間連携をどうやって振り付けていくのか、通常は中間支援組織があれば全部解決するという話もありますが、さいたま市の方でそのような役割も持ちつつ、新規の団体や新しく参加する人たちが生まれてきてもいいと思いますが、このあたりがリーディングプロジェクト3の鍵になるような感じがしました。

はい、時間になりましたので、リーディングプロジェクト3までのご説明の方は、以上とさせていただきます。本日の議事はこれで終了になりますので、一旦事務局の方に、お戻ししたいと思います。

事務局

はい。福岡会長並びに委員の皆様、長時間に渡りご議論ありがとうございました。本日のリーディングプロジェクトにつきましては、まだどちらかというと試行的に取り組んでいるような内容が多くて、ご意見頂戴したように、具体の活用方策等がまだ決まっていない状況になっています。その中でも、ストリートプランツの緑化滞在空間マニュアルなどガイドラインを作って、外にPRしていくような取り組みを並行してやっていきたいと思いました。今後、緑の基本計画の中間評価、さらにはこの先の緑の基本計画の見直しに向けて、今日いただいたご意見等を参考にしながら、議論を深めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご助言の方よろしく願いいたします。続きまして、報告事項が1点ございますので、ご説明いたします。

事務局

〔資料2 記念樹贈呈事業の変更についての説明〕

事務局

それでは、本日の予定しておりました議題は以上となります。

これをもちまして、令和7年度第2回さいたま市花と緑のまちづくり
審議会を閉会といたします。本日はありがとうございました。